

恋人・結婚相手が持つ否定的特性への嫌悪

Dislike for Negative Traits of Lover and Spouse

戸塚 唯氏

Tadashi TOZUKA

本研究の目的は、大学生が恋人・結婚相手のどのような性格特性を嫌だと思ふのかを検討することであった。調査参加者は日本人大学生 154 名（男性 106 名、女性 48 名）で、まず彼らに対して肯定的特性リストを呈示して自分自身にどの程度これらの特性があるかを回答させた。これが自己評価得点である。次に否定的特性リストを呈示し、恋人・結婚相手にこれらの特性があったら、どのくらい嫌だと思ふかを回答させた。これが嫌悪得点である。自己評価得点に関して、男女のデータを比較した結果、全体的に見て男女の得点に大きな違いがないことが示唆された。次に、嫌悪得点を従属変数にとりて分散分析を行った。独立変数は、性（男性・女性）と対象（恋人・結婚相手）であった。その結果、次のことが示唆された。1. 女性は男性性特性が低い恋人や結婚相手を嫌悪し、男性は女性性特性が低い恋人や結婚相手を嫌悪する傾向があること。2. 男性も女性も、恋人よりも結婚相手に対して高い資質を求めていること。

問題

研究の背景

若者にとって恋愛は大きな関心事であるといえる。例えば詫摩（1986）は、大学生が「恋愛と結婚」に対して大きな関心を持っていることを報告している。また若者向けの小説や映画では、しばしば恋愛が主要なテーマとして取り上げられているが、これは若者が恋愛に対して関心を向けている反映といえる。若者は恋愛に強い関心を抱いており、たくさんの時間・労力・金銭を恋愛関係の形成や維持に費やしている。このような恋愛という現象を心理学的に研究することには社会的に大きな意義がある。

恋愛とは性的に魅力を感じる対象に対する肯定的な感情と定義される（飛田, 1999）。社会心理学は、いろいろな視点から恋愛を研究してきた。例えば、恋愛に対する若者の

全体的態度（e.g., 上野, 2004）、恋愛と社会的スキルの関係（e.g., 堀毛, 1994）、恋愛の段階（e.g., 松井, 1993, 2000）、恋愛関係形成時の告白の言語的方策（e.g., 樋口・磯部・戸塚・深田, 2001）などである。なかでも、恋人・結婚相手にどのような性格・態度・特性を望むかに関する研究は多い。例えば、詫摩（1973）や松井・江崎・山本（1983）はどのような性格特性の異性を好むかについての研究（いくつかの性格特性の中から当てはまるものを選択させた）を、戸塚・森・児玉・深田（2002）はどのような性格特性がどの程度好まれるかについての研究（各性格特性についてどの程度好ましいと思ふかを選択させた）を行っている。これらの研究は異性への適切なアピールを行う上で重要な示唆を与えてくれるものであり、今後さらに詳細な研究が望まれる。

ところで、上述のように「ある特性をもっていた場合にどの程度異性に好まれるか」に関する研究は行われているが、「好まれる程度」だけを明らかにするのは片手落ちではないだろうか。「好まれる程度」だけではなく「嫌われる程度」についても研究する必要がある。例えば、先行研究によって「男性は、たくましさという特性をもっていた場合にかかなり好かれる傾向がある」ということが示唆された

連絡先：戸塚唯氏 t-tozuka@cis.ac.jp

千葉科学大学 教職課程

Professional Teaching Course, Chiba Institute of Science

(2009年09月24日受付, 2009年11月30日受理)

しても、その事実は「たくましさをもっていないと嫌われる傾向がある」ということを必ずしも意味しているわけではないだろう。「たくましさはあった方がいいが、それがなくとも嫌ったりしない」という場合も存在すると思われる。ある特性の存在が恋愛関係の形成にどのような影響を与えているかを全体的に明らかにするためには、「その特性をもっていた場合に異性から好かれる程度」と「その特性をもっていなかった場合に異性から嫌われる程度」の両方を検討する必要がある。そこで本研究では、戸塚ら（2002）の研究をもとに、ある特性をもっていないこと（言い換えればその正反対の特性をもっていること：例、たくましさがない）によって異性からどの程度嫌われる傾向があるかを検討する。

主要な先行研究

戸塚ら（2002）の研究 この調査は、伊藤（1978）のM-H-F尺度に挙げられている特性に関して、大学生の現実の自己像、大学生が異性に呈示する自己像、異性が抱く理想像を検討したものである。M-H-F尺度とは、個人の性役割に関する価値観を測定するための尺度であるが、ここでは30の性格特性（男性性特性10、女性性特性10、人間性特性10）が挙げられていた。男性性特性とは伝統的に男性に求められてきた特性であり、女性性特性とは伝統的に女性に求められてきた特性であり、また人間性特性とは性別にかかわらず、全ての人に求められてきた特性である。このM-H-F尺度が異性に求める特性を調査する上で利用できるものであったため、戸塚ら（2002）はこの30項目に独自の特性9項目を追加した特性リストを作成し、それを用いてそれらの特性が自分にどのくらい当てはまるか（現実自己得点）、ある異性と恋愛関係を結びたい際にそれらの特性をどの程度相手にアピールしたいか（アピール得点）、それらの特性が理想とする異性にどの程度当てはまるか（理想得点）を測定した。その後、男女別に集計・分析したところ、①現実自己得点に関しては、男女の差があまりないこと、②アピール得点に関しては、男性は男性性特性をアピールしたいと考え、女性は女性性特性とアピールしたいと考えていたこと、③理想得点に関しては、男性は女性性特性が高い女性を理想としており、女性は男性性特性が高い男性を理想としていること、が明らかとなった。これらの結果から、現実の男女ではあまり性格に差が見られずユニセックス化が進んでいることが示唆される一方で、異性に対して求める特性については伝統的な性役割感が色濃く残っていることが示された。

天谷（2005）の研究 天谷（2005）は、これまでの社会心理学における恋愛研究では恋愛と結婚が切り離されて研究されてきたことを論じた上で、恋人と結婚相手に求める態度等に関する調査を行った。この調査は、大学生を対象にLee（1977）の恋愛6類型に基づいた恋愛類型尺度・結

婚類型尺度を用いて恋人や結婚相手に対する態度や感情を検討したものである。結婚類型尺度を因子分析にかけたところ、4因子（エロス、アガペ、マニア、プラグマ）が得られ、アガペとプラグマについて性差があることなどを明らかにした。

本研究の目的

戸塚ら（2002）は、M-H-F尺度の30特性を用い、それらの特性を理想の異性がどの程度持っていて欲しいかを尋ねている（理想得点）。この理想得点は、各特性が恋人にあって欲しいと思う程度を示している。しかし上述のように、この尋ね方では、恋人がそれらの特性をもっていなかった場合にどれくらい嫌だと思えるかを明らかにできない。「ある特性をもっていて欲しい」ということと、「その特性をもっていないから嫌いになる」ということは同じではないだろう。「ある特性をもっていて欲しいとは思うものの、持っていないことも特に嫌だと思わない」ということも考えられるのである。例えば、戸塚ら（2002）のデータでは、「男性は女性に愛嬌をたくさんもっていて欲しいと思っっている」ことが示されているが、そのことは「男性は愛嬌がない女性を嫌う」ということを必ずしも保証していない。「愛嬌をたくさんもっていて欲しいと思っものの、あまり持っていないことも別に嫌わない」という可能性もあるだろう。そこで本研究は、戸塚ら（2002）の特性リストを逆転したものをを用い、恋人・結婚相手がそれらをもっていた場合にどの程度嫌だと思えるかを検討する。戸塚ら（2002）の結果と、この研究の結果をつきあわせることによって、恋愛形成に及ぼす個々の性格特性の影響が明らかになるとと思われる。

また、天谷（2005）で指摘されているように、これまでの恋愛研究では結婚相手に対するデータはあまり測定されておらず、恋人と結婚相手に対して求める特性の差異はほとんど明らかとなっていない。そこで、本研究では恋人が持っていたら嫌だと思っ特性だけでなく、結婚相手が持っていたら嫌だと思っ特性についても測定し、両者の差異を検討する。

方法

調査参加者と調査手続き

調査参加者 調査参加者は千葉県内の日本人大学生174名であった。ここから、回答に不備のある者15名、24歳以上の者1名、異性愛指向でない者4名（同性愛指向の者、両性愛指向の者、不明の者）を除いた結果、最終的な分析対象者は154名（男性106名、女性48名）となった。

調査手続き 調査は、大学の講義時間中に集団実施した。質問紙の表題は「恋人や結婚相手への意識に関するアンケート」であり、20分程度で実施した。また、基本的な伝達

事項として質問紙表紙および口頭で、この調査は無記名で行うこと、個人が特定されるような形で結果を報告することは絶対にないこと、何らかの理由・信念・主義等のために回答したくない場合にはアンケートの全てあるいは一部に回答しなくてよいことを伝えた。調査時期は、2009年7月であった。また調査を実施した2週間後には、デブリーフィングを行い、調査の目的や結果の概略を説明した。

特性リスト

本研究で用いた特性のリストは2つ存在する。1つ目のリストは戸塚ら(2002)とほぼ同じリストであり、「冒険心に富んだ」「かわいい」などの肯定的表現が列記されたものであった。これを本研究では肯定的特性リストと表記する。戸塚ら(2002)の特性リストは、男性性特性(10項目)、女性性特性(10項目)、人間性特性(10項目)、その他の特性(9項目)から成っていたが、本研究の肯定的特性リストは、男性性特性・女性性特性・人間性特性については戸塚ら(2002)と同じであり、「その他の特性」についてだけ、一部項目を入れ替え^{注1}、13項目とした。表1を参照。

もう一つのリストは肯定的特性リストの表現を逆にした否定的特性リストである(例えば「冒険心に富んでいる」は「冒険心がない」に、「明るい」は「暗い」に)^{注2}。表2を参照。ただし、この否定的リストの「その他の特性」におけるタバコとお酒に関する項目に関しては、逆転すると回答の際、調査参加者の認知的負荷^{注3}が大きくなると判断されたため逆転しなかった。また、タバコやお酒に関しては、量(喫煙量、飲酒量)が相手への嫌悪に強く影響する可能性が考えられた(すなわち、多少の飲酒なら構わないけれども、大量の飲酒は嫌だという人が少なからず存在すると推測された)。そのため、これらの項目に関しては「程度」を変化させた計4項目で測定することにした(表2における42~45の項目を参照)。

測定項目

自己評価得点 調査参加者に肯定的特性リストの1~41の項目を呈示し、それぞれの特性が現実の自分にどの程度当てはまるかを5段階で評定させた(全くあてはまらない1点~非常に良くあてはまる5点)。また、肯定的特性リストの項目42(タバコを吸う)、項目43(お酒を飲む)については、まったく吸わない(飲まない)1点、非常によく吸う(飲む)5点で評定させた。以下本研究では、これらの得点を自己評価得点と表記する。

嫌悪得点 まず、否定的特性リストの1~45の項目を呈示し、これらの各特性を恋人・結婚相手が持っていたとしたら、どのくらい嫌だと思うかを5段階で評定させた(気にならない1点~すごく嫌だ5点)。以下本研究では、これらの得点を嫌悪得点と表記し、特に恋人の嫌悪得点について言及する場合には恋人嫌悪得点、結婚相手の嫌悪得点に

ついて言及する場合には結婚相手嫌悪得点と表記する。

人口統計学的変数 年齢、所属学科、性別(男性・女性)、結婚しているかどうか(はい・いいえ・答えられない)、異性愛指向かどうか(異性愛指向・同性愛指向・両方の指向をもつ・答えられない・その他)、日本人であるか留学生であるか(日本人・留学生・それ以外)について回答してもらった。

結果と考察

自己評価得点に関する検討

まず自己評価得点を男女別に集計し(表1)、平均点が高かった項目をピックアップしたところ、男性に関しては「子供が好きである」「熱中できる趣味がある」「健康である」「自分の生き方をもっている」といった項目が見いだされた。女性に関しては「健康である」「子供が好きである」「将来の展望をもっている」「熱中できる趣味がある」といった項目が見いだされた。男女ともに「子供が好きである」「熱中できる趣味がある」「健康である」という項目の平均点が高かったのは興味深い。

次に、各項目に関して男性と女性の平均点を比べるために t 検定を行った(表1右列にそれぞれの t 値を示す)。その結果、43項目中8項目において有意な差が見いだされた。男性の方で得点が大きかったのは、「指導力がある」「信念を持っている」「自己主張できる」「優雅である」「静かである」「タバコを吸う」「お酒を飲む」であり、女性の方で得点が大きかったのは、「実現困難な夢は持つべきでない」という項目のみであった。このように8項目において有意な差が見られたが、全体としては見れば男女であまり大きな差はないように思われた。男性だからと言って男性性特性の得点が女性よりもずっと大きいわけではなく、女性だからと言って女性性特性の得点が男性よりもずっと大きいわけではなかった。

ほぼ同じ特性リストを用いて2001年に自己評価を検討した戸塚ら(2002)の研究では、本研究で差が見られた8項目の他に、「頼りがいがある」「従順である」「頭が良い」「視野が広い」「熱中できる趣味がある」「スタイルが良い」などの項目で有意差が見られており、今回の研究よりも有意差が出た項目が多かった。戸塚ら(2002)と今回の調査では、調査参加者の属性の違いがあるので断定することはできないが、もしかしたらここ数年で男女のユニセックス化がより進んでいるのかもしれない。なお、上述のデータはリッカート法による自己報告で得られたものであるが、一部の参加者は自己の特徴の程度を評定する際に暗黙の内に同性集団を想定し、その中で自分の特性の相対的程度を回答している可能性もある。今後より正確な測定を行って再度検討する必要があるだろう。

表1 各特性に関する自己評価
(平均値と標準偏差、男女ごと)

	男性データ		女性データ		t 値
	M	SD	M	SD	
男性 特性	1 冒険心に富んでいる	2.92 (1.14)	2.98 (1.06)	0.28	
	2 たくましい	2.32 (1.00)	2.52 (0.95)	1.17	
	3 大胆である	2.81 (1.29)	2.90 (1.08)	0.40	
	4 指導力がある	2.52 (1.01)	2.15 (1.03)	2.11 *	
	5 信念を持っている	3.63 (1.12)	3.17 (1.08)	2.41 *	
	6 頼りがいがある	2.51 (0.89)	2.50 (0.95)	0.06	
	7 行動力がある	3.15 (1.25)	2.92 (1.15)	1.11	
	8 自己主張できる	3.30 (1.27)	2.83 (1.08)	2.21 *	
	9 意志が強い	3.34 (1.21)	3.21 (1.11)	0.64	
	10 決断力がある	3.10 (1.22)	2.73 (1.09)	1.83	
女性 特性	11 かわいらしい	1.84 (1.01)	1.92 (0.92)	0.45	
	12 優雅である	2.01 (1.10)	1.58 (0.74)	2.44 *	
	13 色気がある	1.54 (0.83)	1.50 (0.74)	0.27	
	14 献身的である	3.03 (1.13)	2.90 (1.17)	0.67	
	15 愛嬌がある	2.43 (1.16)	2.81 (1.07)	1.92	
	16 言葉づかいが丁寧である	2.90 (1.26)	2.63 (1.02)	1.31	
	17 繊細である	3.01 (1.08)	3.00 (1.22)	0.05	
	18 従順である	2.92 (1.01)	2.90 (1.22)	0.15	
	19 静かである	3.21 (1.40)	2.69 (1.24)	2.21 *	
	20 おしゃれである	2.24 (0.98)	2.54 (1.03)	1.76	
人間 特性	21 忍耐強い	3.46 (1.27)	3.56 (1.11)	0.47	
	22 心が広い	3.44 (1.18)	3.25 (1.14)	0.95	
	23 頭が良い	2.08 (0.88)	2.08 (0.79)	0.01	
	24 明るい	3.39 (1.25)	3.48 (1.13)	0.44	
	25 暖かい	3.45 (1.11)	3.27 (1.05)	0.96	
	26 誠実である	3.50 (1.07)	3.15 (1.03)	1.92	
	27 健康である	3.83 (1.26)	4.13 (0.96)	1.44	
	28 素直である	3.47 (1.20)	3.60 (0.96)	0.67	
	29 自分の生き方をもっている	3.75 (1.19)	3.33 (0.93)	2.12	
	30 視野が広い	3.33 (1.08)	3.04 (0.94)	1.59	
その 他の 特性	31 顔のつくりが良い	1.92 (0.93)	1.88 (0.76)	0.32	
	32 スタイルが良い	2.02 (1.09)	1.75 (0.84)	1.52	
	33 熱中できる趣味がある	3.93 (1.28)	3.71 (1.40)	0.98	
	34 経済的に余裕がある	2.39 (1.05)	2.35 (0.98)	0.18	
	35 料理が得意である	2.75 (1.24)	2.90 (1.19)	0.71	
	36 服のセンスが良い	2.23 (0.91)	2.48 (1.05)	1.52	
	37 よく家事をする	3.36 (1.37)	3.60 (1.27)	1.05	
	38 実現困難な夢は持つべきでない	2.34 (1.28)	2.96 (1.24)	2.81 **	
	39 子供が好きである	3.98 (1.15)	3.77 (1.28)	1.02	
	40 将来の展望をもっている	3.67 (1.30)	3.75 (1.25)	0.36	
	41 あまりウソをつくことはない	3.25 (1.09)	3.58 (1.16)	1.75	
	42 タバコを吸う	1.33 (0.76)	1.02 (0.14)	2.77 **	
	43 お酒を飲む	2.00 (0.96)	1.46 (0.71)	3.51 **	

注1: 上記の項目は全て5段階尺度(1-5)である。また質問紙において、1の回答段階には「全くあてはまらない」、5の回答段階には「あてはまる」のラベルが添えられていた。ただし、42、43の項目に限っては、1の回答段階に「全く吸わない(飲まない)」、5の回答段階に「非常によく吸う(飲む)」というラベルが添えられていた。

注2: 大きな数値を目立たせるため、3.50点以上のMを太字斜体にした。

注3: 上記のt値は絶対値であり、自由度は全て152である。* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

嫌悪得点に関する検討

分散分析 嫌悪得点に及ぼす性別と対象の影響を検討するために2要因の分散分析を行った。独立変数は性（男性・女性）、対象（恋人・結婚相手）であり、前者は被験者間変数、後者は被験者内変数であった。従属変数は1～45の項目に関する嫌悪得点であり、同様の分散分析を45回行った（表2）。これらの分散分析で判明した性の影響、対象の影響を次に記す。

性の影響 対象ごとの男女の差を明らかにするために、各従属変数の水準別平均点を算出し（表3）、その上で分散分析の結果に基づいて恋人水準における男性と女性の M のうち、大きい方にアミをかけた。同様に結婚相手水準における男性と女性の M のうち大きい方にアミをかけた。その結果、男性性特性に関しては、恋人嫌悪得点も結婚相手嫌悪得点も概ね女性の方で得点が高かった。すなわち、女性は男性よりも男性性特性が低い恋人や結婚相手を嫌悪することが示された。また、女性性特性に関しては、その逆の傾向が見られ、恋人嫌悪得点も結婚相手嫌悪得点も概ね男性の方で得点が高かった。すなわち、男性は女性よりも女性性特性が低い恋人や結婚相手を嫌悪することが示された。戸塚ら（2002）は、男性は女性性特性を高く持つ女性を好み、女性は男性性特性を高く持つ男性を好むことを示したが、本研究でも概ねそれと一貫する結果が得られたといえる。なお、人間性特性やその他の特性に関しては、いくつかの項目で男女間の差異がみられたものの、顕著な傾向は見られなかった。

対象の影響 男女ごとに対象の差を分かりやすく呈示するために、表3を並べ替えて表4を作成した。その上で分散分析の結果に基づいて男性水準における恋人水準と結婚相手水準の M のうち、大きい方にアミをかけた。同様に女性水準における恋人水準と結婚相手水準の M のうち大きい方にアミをかけた。その結果、男性も女性も概ね結婚相手に対する方で嫌悪得点が大きかった。これは、恋人がある否定的特性（例：たくましさがない）をもっていた場合よりも結婚相手が同じ否定的特性をもっている方が嫌だということを示している。換言すれば、若者は恋人よりも結婚相手に対して高い資質を求めているといえる。ほとんどの場合、結婚している期間は恋愛している期間よりも長い。若者もそれを見越して結婚相手により高い資質を求めているのかもしれない。一方、「かわいらしさがない」という項目に関しては、男女とも恋人の方で嫌悪得点が高かった。これは、恋人はかわいらしい人がいいが、結婚相手はかわいらしさのような表面的要素ではなく、他の実利的要素で選択するという意志の反映なのかもしれない。

また、恋人嫌悪得点と結婚相手嫌悪得点の差が大きかった項目は、男性では「あまり家事をしない」「頼りがいがない」「料理が得意でない」「実現困難な夢を追いかける」で

あった。男性は恋人がこれらの否定的特性をもっている程度許容するが、結婚相手が持っていた場合にはより嫌悪する傾向があるといえる。また女性に関しては、「経済的に余裕がない」「実現困難な夢を追いかける」「将来の展望がない」「言葉づかいが悪い」「不健康である」などであった。女性の場合、経済力に強く関係する項目で差が大きかったように思われる。

嫌悪得点が高い項目 次にどのような条件でどのような特性が強く嫌われるのかを明らかにするために、各条件の嫌悪得点について得点の高い項目をピックアップした（表4の太字部分）。男性条件では「よくウソをつく」「少しタバコを吸う」「ある程度、タバコを吸う」という項目において嫌悪得点が高かった。多くの男性はタバコを吸う女性を敬遠する傾向があることが窺える。女性条件では「頼りがいがない」「心が狭い」「不誠実である」「よくウソをつく」「ある程度タバコを吸う」という項目で嫌悪得点が高かった。最後の項目を除けば、すべて「パートナーへの信頼」に関する項目であり、女性が信頼感を重視している傾向が窺える。一方、嫌悪得点が低かった項目としては、男性条件では「経済的に余裕がない」「少しお酒を飲む」などであり、女性条件では「料理が得意でない」「少しお酒を飲む」などであった。男性は女性の経済的余裕のなさや少量の飲酒について比較的寛容であり、女性は男性の料理の不得意さや少量の飲酒に比較的寛容であることが窺える。女性は料理ができない男性に寛容であるという結果はなかなか興味深い。近年、雑誌などで「料理ができる男性が女性に好まれる」という記事を見る機会が多くなったが、データから考えると現段階で料理ができないからといって女性から忌避される可能性は低いといえるだろう。

戸塚ら（2002）との比較 戸塚ら（2002）は呈示した肯定的特性が理想とする異性（恋人）にどの程度当てはまるか（つまり恋人に持っていて欲しい程度）を測定し、本研究は呈示した否定的特性を恋人・結婚相手が持っていたらどの程度嫌だと思うかを測定した。これらの2研究はいわば表裏の関係にあり、これらの結果を突き合わせることで、ある特性に関する異性からの評価をより明らかにすることができると思われる。図1は戸塚ら（2002）の、図2は本研究の結果である。全体的に見ると、図1で得点が高い特性は、図2においても得点が高い傾向があるように思われる。例えば「心が広い」－「心が狭い」という特性対は、図1・図2のどちらにおいても比較的得点が高い。これは心が広い異性を好み、同時に心が狭い異性を嫌う傾向があることを意味している。「暖かい」－「冷たい」、「誠実な」－「不誠実な」という特性対でも同様の傾向が見受けられる。しかしながら、いくつかの特性対に関しては別の興味深い傾向が示唆された。例えば、「頭の良い」－「頭が良くない」という特性対などである。「頭が良い」という特性は、図1において中程度の得点であり、男女とも

表 2 2要因分散分析の結果

	性の主効果		対象の主効果		交互作用		単純主効果の検定			
	F 値	多重比較	F 値	多重比較	F 値		恋人水準に おける性の 単純主効果 F 値	結婚相手水準 における性の 単純主効果 F 値	男性水準に おける対象の 単純主効果 F 値	女性水準に おける対象の 単純主効果 F 値
1 冒険心がない	4.31*	女>男	31.52**	結>恋						
2 たくましががない	63.71**	女>男	25.14**	結>恋						
3 臆病である	66.05**	女>男	61.42**	結>恋						
4 指導力がない	12.53**	女>男	23.99**	結>恋						
5 信念がない	5.71*	女>男	85.92**	結>恋						
6 頼りがいがない	76.06**	女>男	37.51**	結>恋						
7 行動力がない	4.55*	女>男	45.61**	結>恋						
8 自己主張できない	6.56*	女>男	22.71**	結>恋						
9 意志が弱い	5.91*	女>男	38.08**	結>恋						
10 決断力がない	25.10**	男>女	10.76**	恋>結						
11 かわいらしさががない	22.25**	男>女	29.23**	結>恋						
12 がさつである	33.59**	男>女	27.90**	結>恋						
13 色気がない	16.79**	男>女	41.89**	結>恋						
14 自分勝手である	5.27*	男>女	15.28**	結>恋						
15 愛嬌がない	7.80**	男>女	31.48**	結>恋						
16 言葉づかいが悪い			16.31**	結>恋	4.55*					15.84**
17 繊細でない										
18 人のいうことを聞かない										
19 やかましい										
20 おしやれでない										
21 こらえ性がない										
22 心が狭い			32.79**	結>恋						
23 頭が良くない			15.38**	結>恋						
24 暗い			56.25**	結>恋						
25 冷たい			34.51**	結>恋						
			74.03**	結>恋	5.35*			34.02**		37.66**

表 2 2要因分散分析の結果 (続き)

	性の主効果		対象の主効果		交互作用		単純主効果の検定			
	F 値	多重比較	F 値	多重比較	F 値		結婚相手水準における性の単純主効果 F 値	男性水準における対象の単純主効果 F 値	女性水準における対象の単純主効果 F 値	
26 不誠実である			58.63**	結 > 恋	7.13**		4.24*	21.89**	32.34**	
27 不健康である			57.04**	結 > 恋	6.23*			19.59**	40.94**	
28 ひねくれている			40.72**	結 > 恋						
29 自分の生き方を持っていない			40.65**	結 > 恋	7.48**			10.19**	33.37**	
30 視野が狭い			48.69**	結 > 恋						
31 顔のつくりが良くない	7.04**	男 > 女								
32 スタイルが良くない	5.68*	男 > 女								
33 熱中できる趣味がない			19.51**	結 > 恋						
34 経済的に余裕がない	35.36**	女 > 男	161.60**	結 > 恋	62.70**		69.59**	23.30**	105.39**	
35 料理が得意でない	43.21**	男 > 女	54.63**	結 > 恋	4.91*		43.20**	63.70**	15.26**	
36 服のセンスが悪い										
37 あまり家事をしない	25.93**	男 > 女	91.95**	結 > 恋						
38 実現困難な夢を追いかける	6.49*	女 > 男	104.49**	結 > 恋	9.51**		10.94**	42.23**	59.97**	
39 子供が嫌いである			69.03**	結 > 恋						
40 将来の展望がない			81.66**	結 > 恋	12.92**					
41 よくウソをつく			11.66**	結 > 恋						
42 少しタバコを吸う			20.52**	結 > 恋						
43 ある程度、タバコを吸う			8.99**	結 > 恋						
44 少しお酒を飲む			5.66*	結 > 恋						
45 ある程度、お酒を飲む			31.67**	結 > 恋	9.60**			9.19**	13.92**	

注1: 上記は2要因分散分析の結果である。独立変数は性(男・女)と対象(恋人・結婚相手)であり、前者は被験者間変数、後者は被験者内変数である。従属変数は1~45の各嫌悪得点である。有意であった数値のみを記載した。また、多重比較の列における男は男性水準を、女は女性水準を、恋は恋人水準を、結は結婚相手水準を表し、不等号はそれらの水準間に有意な差があることを示す。単純主効果の検定に当たっては水準別誤差項を使用した。

注2: * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

表3 恋人と結婚相手に関する嫌悪得点の比較(対象ごとの比較)

		恋人水準				結婚相手水準			
		男性水準		女性水準		男性水準		女性水準	
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
男性特性(～)	1 冒険心がない	2.06	(1.14)	2.38	(1.06)	1.94	(1.10)	2.35	(1.19)
	2 たくましがない	1.94	(1.16)	3.42	(1.16)	2.30	(1.24)	3.88	(1.06)
	3 臆病である	1.87	(1.15)	3.46	(1.27)	2.19	(1.30)	3.85	(1.17)
	4 指導力がない	2.31	(1.23)	3.04	(1.07)	3.02	(1.32)	3.67	(1.12)
	5 信念がない	3.14	(1.25)	3.60	(1.07)	3.48	(1.23)	3.96	(1.17)
	6 頼りがいがない	2.41	(1.18)	4.00	(0.97)	3.19	(1.15)	4.56	(0.71)
	7 行動力がない	3.32	(1.25)	3.65	(1.00)	3.66	(1.14)	4.13	(0.96)
	8 自己主張できない	3.52	(1.22)	3.42	(1.11)	3.80	(1.15)	3.92	(0.99)
	9 意志が弱い	3.17	(1.32)	3.73	(1.09)	3.50	(1.24)	3.98	(1.04)
	10 決断力がない	3.02	(1.28)	3.46	(1.20)	3.39	(1.28)	3.94	(1.06)
女性特性(～)	11 かわいらしさがいい	3.30	(1.53)	2.10	(1.24)	3.05	(1.49)	1.90	(1.06)
	12 がさつである	3.44	(1.38)	2.35	(1.06)	3.69	(1.30)	2.77	(1.13)
	13 色気がない	3.21	(1.45)	1.83	(1.12)	3.02	(1.43)	1.79	(0.99)
	14 自分勝手である	3.84	(1.32)	3.85	(1.18)	4.09	(1.20)	4.23	(1.10)
	15 愛嬌がない	3.60	(1.36)	2.65	(1.10)	3.58	(1.34)	2.77	(1.19)
	16 言葉づかいが悪い	3.45	(1.41)	2.81	(1.16)	3.87	(1.32)	3.56	(1.07)
	17 繊細でない	2.48	(1.30)	1.85	(0.90)	2.67	(1.35)	2.17	(1.00)
	18 人のいうことを聞かない	3.42	(1.34)	3.54	(0.97)	3.74	(1.24)	3.96	(0.82)
	19 やかましい	3.40	(1.41)	3.13	(1.30)	3.54	(1.31)	3.58	(1.18)
	20 おしゃれでない	2.96	(1.36)	2.52	(1.17)	2.88	(1.47)	2.54	(1.13)
人間性特性(～)	21 こらえ性がない	3.04	(1.19)	3.25	(1.04)	3.46	(1.24)	3.60	(1.12)
	22 心が狭い	3.89	(1.07)	4.04	(1.05)	4.09	(1.05)	4.33	(0.83)
	23 頭が良くない	1.92	(1.07)	2.08	(1.25)	2.42	(1.24)	2.79	(1.38)
	24 暗い	3.29	(1.49)	3.56	(1.32)	3.61	(1.42)	4.08	(1.07)
	25 冷たい	3.57	(1.37)	3.42	(1.15)	3.96	(1.29)	4.10	(0.97)
	26 不誠実である	3.79	(1.17)	3.83	(1.08)	4.09	(1.13)	4.46	(0.68)
	27 不健康である	3.32	(1.49)	3.38	(1.06)	3.70	(1.46)	4.13	(0.96)
	28 ひねくれている	3.69	(1.36)	3.21	(1.32)	3.99	(1.29)	3.77	(1.26)
	29 自分の生き方を持っていない	3.42	(1.40)	3.13	(1.04)	3.71	(1.39)	3.83	(1.10)
	30 視野が狭い	3.03	(1.23)	3.23	(0.95)	3.47	(1.20)	3.77	(1.02)
その他の特性(～)	31 顔のつくりが良くない	2.80	(1.36)	2.19	(1.14)	2.71	(1.39)	2.17	(1.08)
	32 スタイルが良くない	2.89	(1.42)	2.29	(1.13)	2.76	(1.44)	2.29	(1.11)
	33 熱中できる趣味がない	2.43	(1.34)	2.56	(1.25)	2.67	(1.41)	2.88	(1.23)
	34 経済的に余裕がない	1.78	(1.10)	2.25	(1.10)	2.15	(1.15)	3.83	(1.17)
	35 料理が得意でない	2.52	(1.34)	1.38	(0.67)	3.29	(1.42)	1.79	(1.03)
	36 服のセンスが悪い	2.83	(1.43)	2.52	(1.18)	2.83	(1.48)	2.56	(1.24)
	37 あまり家事をしない	3.28	(1.41)	2.23	(0.95)	4.09	(1.21)	3.17	(1.12)
	38 実現困難な夢を追いかける	1.90	(1.17)	2.13	(1.30)	2.62	(1.50)	3.48	(1.46)
	39 子供が嫌いである	3.42	(1.56)	3.06	(1.33)	4.10	(1.17)	4.04	(1.22)
	40 将来の展望がない	2.81	(1.42)	2.83	(1.23)	3.37	(1.38)	4.13	(1.04)
	41 よくウソをつく	4.20	(1.19)	4.44	(0.74)	4.49	(0.91)	4.63	(0.70)
	42 少しタバコを吸う	4.05	(1.50)	3.77	(1.46)	4.30	(1.35)	4.17	(1.28)
	43 ある程度、タバコを吸う	4.40	(1.27)	4.46	(1.01)	4.49	(1.20)	4.73	(0.68)
	44 少しお酒を飲む	1.41	(0.83)	1.60	(1.16)	1.43	(0.82)	1.75	(1.28)
	45 ある程度、お酒を飲む	2.64	(1.48)	2.60	(1.57)	2.79	(1.57)	3.13	(1.62)

注1: 上記の項目は全て5段階尺度(1-5)である。また質問紙において、1の回答段階には「気にならない」、5の回答段階には「すごく嫌だ」のラベルが添えられていた。

注2: 恋人水準の列にアミがかかった部分があるが、これは恋人水準における男性水準の*M*と女性水準の*M*のうち大きい方を目立たせるために、大きい方の値にアミをかけたものである。これは先に行った分散分析で「性の主効果」あるいは「恋人水準における性の単純主効果」が見いだされた従属変数に関してのみ行なった(性の主効果と交互作用が両方出ているような従属変数の場合には、単純主効果の検定の結果をもとにアミをかけた)。結婚相手水準列のアミについても同様で、先に行った分散分析で「性の主効果」あるいは「結婚相手水準における性の単純主効果」が見いだされた従属変数に関してのみ行なった。

表4 恋人と結婚相手に関する嫌悪得点の比較(性ごとの比較)

	男性水準				女性水準			
	恋人水準		結婚相手水準		恋人水準		結婚相手水準	
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD
1 冒険心がない	2.06	(1.14)	1.94	(1.10)	2.38	(1.06)	2.35	(1.19)
2 たくましさがない	1.94	(1.16)	2.30	(1.24)	3.42	(1.16)	3.88	(1.06)
3 臆病である	1.87	(1.15)	2.19	(1.30)	3.46	(1.27)	3.85	(1.17)
4 指導力がない	2.31	(1.23)	3.02	(1.32)	3.04	(1.07)	3.67	(1.12)
5 信念がない	3.14	(1.25)	3.48	(1.23)	3.60	(1.07)	3.96	(1.17)
6 頼りがいがいい	2.41	(1.18)	3.19	(1.15)	4.00	(0.97)	4.56	(0.71)
7 行動力がない	3.32	(1.25)	3.66	(1.14)	3.65	(1.00)	4.13	(0.96)
8 自己主張できない	3.52	(1.22)	3.80	(1.15)	3.42	(1.11)	3.92	(0.99)
9 意志が弱い	3.17	(1.32)	3.50	(1.24)	3.73	(1.09)	3.98	(1.04)
10 決断力がない	3.02	(1.28)	3.39	(1.28)	3.46	(1.20)	3.94	(1.06)
11 かわいらしさがいい	3.30	(1.53)	3.05	(1.49)	2.10	(1.24)	1.90	(1.06)
12 がさつである	3.44	(1.38)	3.69	(1.30)	2.35	(1.06)	2.77	(1.13)
13 色気がない	3.21	(1.45)	3.02	(1.43)	1.83	(1.12)	1.79	(0.99)
14 自分勝手である	3.84	(1.32)	4.09	(1.20)	3.85	(1.18)	4.23	(1.10)
15 愛嬌がない	3.60	(1.36)	3.58	(1.34)	2.65	(1.10)	2.77	(1.19)
16 言葉づかいが悪い	3.45	(1.41)	3.87	(1.32)	2.81	(1.16)	3.56	(1.07)
17 繊細でない	2.48	(1.30)	2.67	(1.35)	1.85	(0.90)	2.17	(1.00)
18 人のいうことを聞かない	3.42	(1.34)	3.74	(1.24)	3.54	(0.97)	3.96	(0.82)
19 やかましい	3.40	(1.41)	3.54	(1.31)	3.13	(1.30)	3.58	(1.18)
20 おしゃれでない	2.96	(1.36)	2.88	(1.47)	2.52	(1.17)	2.54	(1.13)
21 こらえ性がない	3.04	(1.19)	3.46	(1.24)	3.25	(1.04)	3.60	(1.12)
22 心が狭い	3.89	(1.07)	4.09	(1.05)	4.04	(1.05)	4.33	(0.83)
23 頭が良くない	1.92	(1.07)	2.42	(1.24)	2.08	(1.25)	2.79	(1.38)
24 暗い	3.29	(1.49)	3.61	(1.42)	3.56	(1.32)	4.08	(1.07)
25 冷たい	3.57	(1.37)	3.96	(1.29)	3.42	(1.15)	4.10	(0.97)
26 不誠実である	3.79	(1.17)	4.09	(1.13)	3.83	(1.08)	4.46	(0.68)
27 不健康である	3.32	(1.49)	3.70	(1.46)	3.38	(1.06)	4.13	(0.96)
28 ひねくれている	3.69	(1.36)	3.99	(1.29)	3.21	(1.32)	3.77	(1.26)
29 自分の生き方を持っていない	3.42	(1.40)	3.71	(1.39)	3.13	(1.04)	3.83	(1.10)
30 視野が狭い	3.03	(1.23)	3.47	(1.20)	3.23	(0.95)	3.77	(1.02)
31 顔のつくりが良くない	2.80	(1.36)	2.71	(1.39)	2.19	(1.14)	2.17	(1.08)
32 スタイルが良くない	2.89	(1.42)	2.76	(1.44)	2.29	(1.13)	2.29	(1.11)
33 熱中できる趣味がない	2.43	(1.34)	2.67	(1.41)	2.56	(1.25)	2.88	(1.23)
34 経済的に余裕がない	1.78	(1.10)	2.15	(1.15)	2.25	(1.10)	3.83	(1.17)
35 料理が得意でない	2.52	(1.34)	3.29	(1.42)	1.38	(0.67)	1.79	(1.03)
36 服のセンスが悪い	2.83	(1.43)	2.83	(1.48)	2.52	(1.18)	2.56	(1.24)
37 あまり家事をしない	3.28	(1.41)	4.09	(1.21)	2.23	(0.95)	3.17	(1.12)
38 実現困難な夢を追いかける	1.90	(1.17)	2.62	(1.50)	2.13	(1.30)	3.48	(1.46)
39 子供が嫌いである	3.42	(1.56)	4.10	(1.17)	3.06	(1.33)	4.04	(1.22)
40 将来の展望がない	2.81	(1.42)	3.37	(1.38)	2.83	(1.23)	4.13	(1.04)
41 よくウソをつく	4.20	(1.19)	4.49	(0.91)	4.44	(0.74)	4.63	(0.70)
42 少しタバコを吸う	4.05	(1.50)	4.30	(1.35)	3.77	(1.46)	4.17	(1.28)
43 ある程度、タバコを吸う	4.40	(1.27)	4.49	(1.20)	4.46	(1.01)	4.73	(0.68)
44 少しお酒を飲む	1.41	(0.83)	1.43	(0.82)	1.60	(1.16)	1.75	(1.28)
45 ある程度、お酒を飲む	2.64	(1.48)	2.79	(1.57)	2.60	(1.57)	3.13	(1.62)

注1: 上記の項目は全て5段階尺度(1-5)である。また質問紙において、1の回答段階には「気にならない」、5の回答段階には「すごく嫌だ」のラベルが添えられていた。

注2: 男性水準の列にアミがかかった部分があるが、これは男性水準における恋人水準のMと結婚相手水準のMのうち大きい方を目立たせるために、大きい方の値にアミをかけたものである。これは先に行った分散分析で「対象の主効果」あるいは「男性水準における対象の単純主効果」が見いだされた従属変数に関するのみ行った(対象の主効果と交互作用が両方出ているような従属変数の場合には、単純主効果の検定の結果をもとにアミをかけた)。女性水準列のアミについても同様で、先に行った分散分析で「対象の主効果」あるいは「女性水準における対象の単純主効果」が見いだされた従属変数に関するのみ行った。

注3: 強く嫌だと感じる項目の数値を目立たせるため、4.00点以上のMを太字斜体にした。

注4: 上の数値は表3の数値を並べ替えたものである。恋人と結婚相手への嫌悪得点を分かりやすく比較するためにあえて再掲した。

この特性をある程度恋人が持っていたら良いと考えていることが分かる。一方で「頭が良くない」という特性の得点（嫌悪得点）は低く、男女とも恋人が「頭が良くない」という特性をもっていたとしても、それほど嫌ではないことを示している。男性データにおける「料理が得意」－「料理が得意でない」なども同様で、男性は料理が得意な女性を好ましく思っている一方で、料理が得意でなくともそれほど嫌だと思っていない傾向が窺える。女性データにおける「たくましい」－「たくましくない」についても同じことが言え、女性はたくましさをもつ男性を好む一方で、たくましさがなかったとしてもそれほど嫌がらない傾向が窺える。これらの結果から、「恋人にある肯定的特性を持って欲しい程度」と「恋人がある否定的特性をもっていたら嫌だという程度」は必ずしも一致するわけではなく、「許容できる幅」のようなものがあることが推測される。これまでの研究では、このような相手の特徴に対する許容範囲に関する検討はほとんど行われてこなかったように思われる。しかしながら、実際には理想の特徴を持った完全な異性に巡り合うことはまれであり、ある程度の妥協がなされていると思われる。このような相手の特徴に対する許容範囲を検討することは実際の恋愛行動を理解する上で重要であると思われる。本研究で測定したような「ある否定的特性をどの程度嫌だと思うか」という質問は、許容できる領域の下限に関するものであると言えるが、今後さらに類似の研究を積み重ねていく必要があると思われる。なお、この戸塚ら（2002）と本研究の結果の比較には、様々な限界が存在することについても言及しておきたい。これら2つの研究の参加者の平均年齢や男女比は同一ではないし、測定段階（4段階と5段階）や研究の時期も異なっている。また統計的な検討をしているわけでもない。これらの2研究を比較検討することはやや無理があり、そのためこの節の結果が十分信頼できるものであると言うことはできない。ただ、今までなされてこなかったある特性に関する許容範囲の検討をすることには意味があるだろうと思われるので記載した。この節の検討・記述は1つのパイロットスタディであることを明記しておく。

まとめと今後の課題

本研究では、恋人・結婚相手の各否定的特性について調査参加者がどの程度嫌だと思うかを検討した。その結果、以下のようなことが示唆された。1) 女性は男性性特性が低い恋人や結婚相手を嫌悪し、男性は女性性特性が低い恋人や結婚相手を嫌悪すること。2) 男性も女性も概ね結婚相手に対して嫌悪得点が大きく、恋人がある否定的特性をもっていた場合よりも結婚相手が同じ否定的特性をもっている方が嫌だと思いう傾向があること。3) 男性の嫌悪得点で比較的大きかったのは、タバコに関する特性であり、女性の嫌悪得点で比較的大きかったのは信頼感のなさに関する

特性であること。4) 戸塚ら（2002）との比較により、ある特性についてその特性をたくさん持っていて欲しいと思う程度と、その逆の特性をもっていたら嫌だと思いう程度は、必ずしも一致しないこと。ただし4の知見については十分な検討ができておらず、今後更なる検討が必要である。

最後に今後の課題について述べておきたい。本研究では恋人・結婚相手が持っていたら嫌だと思いう特性（特に性格特性）の程度を明らかにしたが、それ以外の外見・属性に関して同様の研究を行う必要があると思われる。それによってパートナー選択における性格とその他の属性の影響の違いが明らかになると思われる。また、恋人選択を想定させるだけでなく、結婚相手選択を想定させた場合のデータを蓄積していくことも重要である。天谷（2005）が指摘しているように、結婚相手の選択に関する研究はあまり存在していない。離婚率が増加している昨今、男女が相手に対してどのような特性を求めているかを研究することには大きな意味があるだろう。また、参加者の恋愛経験の違いや現在の恋人・結婚相手の有無が回答にどのような影響を与えるかについても明らかにする必要があるし、その際にどのように対象を想像してもらうか（場面想定法を使い全く架空の人物を想定してもらう、実際の人物を想定してもらうなど）についても検討する必要がある。さらに、本研究では戸塚ら（2002）との比較を行ったが、前述の通り様々な限界があつて十分な比較が行えていない。今後は、相手がある特性をもっていたらどのくらい良いと思いうかと、相手がある逆の特性をもっていたらどのくらい嫌であるかを同時に測定し、比較していく必要がある。そうすることによって、諸特性に関する許容範囲が明らかになり、恋人・結婚相手選択に及ぼす諸特性の影響をより明らかにすることができるだろう。

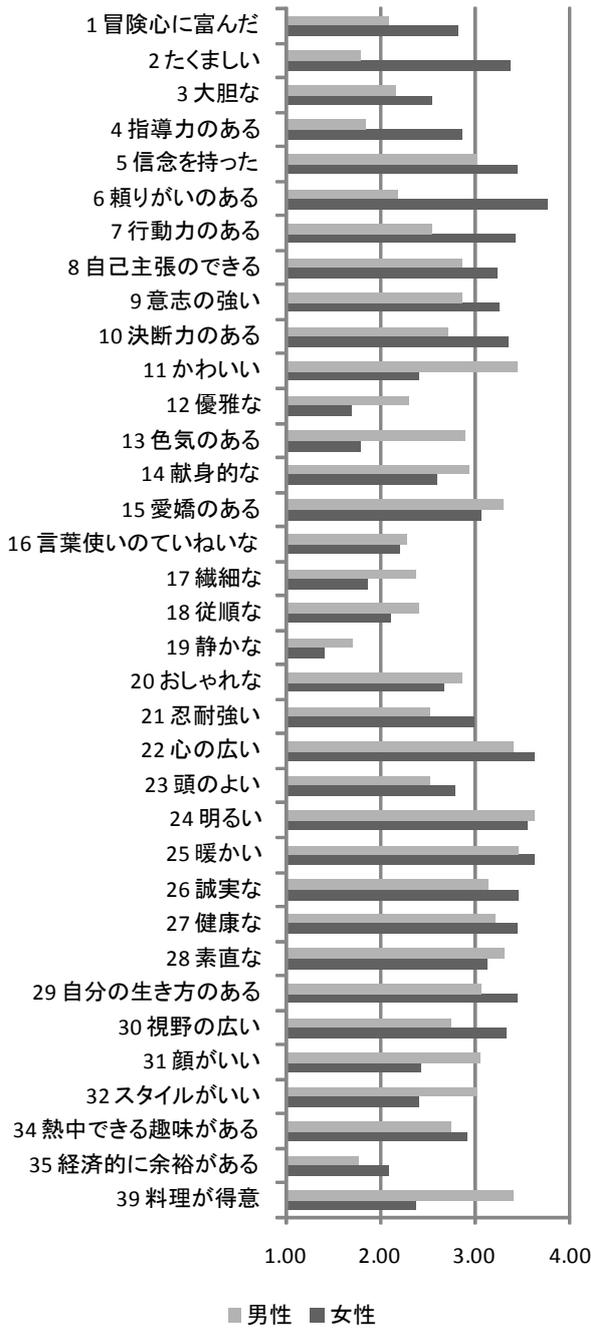


図1 恋人がその特性を持っていたら
良いと思う程度

得点が大きくなる程、当の特性を恋人に持っていて欲しいと思っていることを示している。戸塚ら (2002) のデータを一部改編。

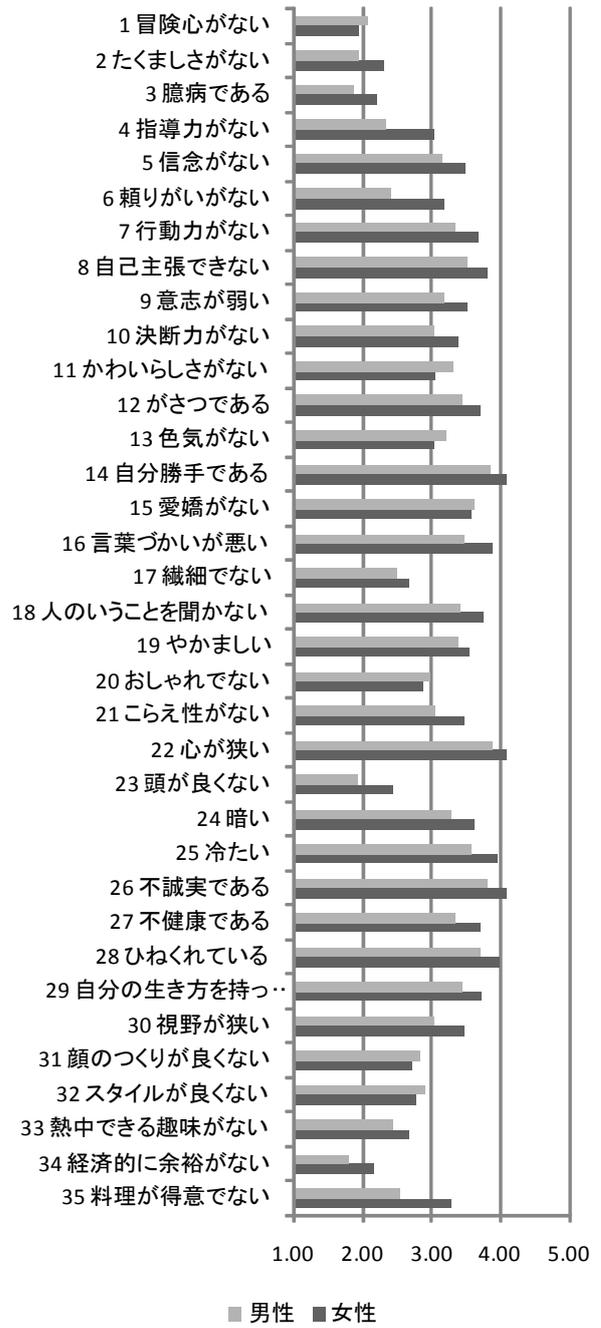


図2 恋人がその特性を持っていたら
嫌だと思ふ程度

得点が大きくなる程、当の特性を恋人が持っていたら嫌だと思っていることを示している。

注

注1:本研究で重要でないと思われる項目を省き、好悪に強く関係すると思われるお酒・タバコに関する項目を新たに設けた。

注2:ある特性をもっていないこと(例:たくましさがないこと)をどのくらい嫌だと思うかを尋ねる場合、少なくとも2つの尋ね方がある。1つは「たくましい」という特性を呈示した上で、「恋人がこの特性を持っていなかったらどのくらい嫌だと思えますか」と尋ねるものである。もう1つは「たくましさがない」という特性を見せた上で、「恋人がこのような特徴を持っていたらどのくらい嫌だと思えますか」と尋ねるものである。表現が異なるだけでどちらも同じことを尋ねているのだが、前者の場合、調査参加者の認知的負荷が高くなると予想される項目があり(例えば、肯定的特性リストにおける「自分の生き方をもっている」)、混乱が予想されたため、あえて否定的リストを作成した。

注3:例えば、「タバコを吸う」を逆転させると「タバコを吸わない」になる。そして否定的リストにその表現を採用すると、『タバコを吸わない』ことがどのくらい嫌だと思えますか』という質問を行うことになる。このような質問は参加者の混乱を招きかねないと思ったので、これらの質問項目については逆転するのを止めた。

引用文献

天谷裕子 2005 恋人と結婚相手に対して求めるものの違い—性差と恋人の捉え方・恋愛経験の有無から— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学, 52, 9-19.

樋口匡貴・磯部真弓・戸塚唯氏・深田博己 2001 恋愛関係の進展に及ぼす告白の言語的方策の効果 広島大学心理学研究, 1, 53-68.

堀毛一也 1994 恋愛関係の発展・崩壊と社会的スキル 実験社会心理学研究, 34, 116-128.

伊藤裕子 1978 性役割の評価に関する研究 教育心理学研究, 26, 1-11.

Lee, J. A. 1977 A typology of styles of loving. Personality and Social Psychology Bulletin, 3, 173-182.

松井 豊 1993 恋愛行動の段階と恋愛意識 心理学研究, 64, 335-342.

松井 豊 2000 恋愛段階の再検討 日本社会心理学会第41回大会発表論文集, 92-93.

松井 豊・江崎 修・山本真理子 1983 魅力を感じる異性像—同性の推測と実際とのズレ— 日本社会心理学会第24回大会研究発表論文集, 44-45.

詫摩武俊 1973 恋愛と結婚 依田 新・大西誠一郎・斎藤耕二・津留宏・西平直喜・藤原喜悦・宮川知彰(編) 現代青年の性意識 Pp.141-193.

詫摩武俊 1986 青年の心理(改訂版) 培風館

飛田 操 1999 恋愛関係 中嶋義明(監修) 心理学辞典 有斐閣 p.50.

戸塚唯氏・森大介・児玉真樹子・深田博己 2002 現実の自己像、異性に呈示する自己像、異性が抱く理想像のずれ 広島大学心理学研究, 2, 47-62.

上野行良 2004 現代女子青年の恋愛に対する態度の諸側面, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 13(1), 15-29.

Dislike for Negative Traits of Lover and Spouse

Tadashi TOZUKA

Professional Teaching Course, Chiba Institute of Science

The purpose of this study was to explore the university student's levels of dislike toward negative traits of lover or spouse. Participants were 154 Japanese university students (106 were male, 48 were female). Firstly, participants were presented the affirmative traits list, and they were asked that how much these traits fit to themselves. These scores were called self evaluation score. Secondly, participants were presented the negative traits list, and they were asked that how much they feel disgust if their lover or spouse had these traits. These scores were called disgust score. Student's *t* test about male's self evaluation scores and female's self evaluation scores revealed that there were little differences between these scores, globally. In the next place, ANOVAs about disgust scores were conducted. Independent variables were sex (male, female) and object (lover, spouse). These results of ANOVAs indicated next findings. 1. Female dislikes lovers or spouses who have little virile traits, and Male dislikes lovers or spouses who have little feminal traits. 2. Male and female want that his /her spouses have better traits than his /her lovers have.